

NEC
データストレージ統括部
ディレクター
福谷 貴之



iStorageブランド全般

Q: 最近のストレージが担う役割と、それに対するiStorageのアプローチを教えてください。

A: 最近、ストレージは企業のデータを確実に保管するという役割から「お客様のデジタル変革を支える基盤」へと変化しております。
iStorageではこのようなトレンドを取り込んで以下のような強化を図っております。

1. 事業継続・災害対策: 遠隔地・クラウドへのデータ保護
2. セキュリティの重要性: ランサムウェア対策やデータの暗号化
3. 仮想化システム: 高速・大容量処理、運用簡易化

Q: 2000年のiStorageブランド立ち上げ当初にこめた思いやエピソードを教えてください。

A: 1990年代にサーバ・クライアントシステムが本格化し、磁気ディスクはその「周辺機器」でした。そのような時代に、海外で先行ベンダがディスクアレイ装置を製品化し始めました。
NECでも課題意識を持った若手社員の発案により、メインフレームで培った技術を駆使しながら2000年に自社ストレージ製品として「iStorage」を製品化しました。
ブランド名は、当時複数の候補の中で「i」が頭につく製品はあまりなく、先進的な意味を込めて「iStorage」と名付けました。

Q: ブランド立ち上げから現在に至るまで引き継がれているiStorageらしさは何ですか。

A: 「iStorage」のブランドは25年続いていますが、“課題意識と柔軟なアイデア”と“ストレージ技術力の継承”を継続していることがiStorageらしさなのではないかと考えています。
それを元に、以下の特長がiStorageらしさとして提供されています。

1. 多様な製品群による柔軟性
SAN、NAS、バックアップ、アーカイブ、FCスイッチなど、用途に応じた豊富なラインナップの提供
2. 国内開発・国内生産による品質と安心
NECグループの国内工場で製造され、全国に300箇所以上の保守拠点があり、技術者のサポートによる迅速かつ安心・安全なサポートの提供
3. ワンストップでのITインフラ提供
ストレージだけでなく、サーバ、ネットワーク、クラウド、セキュリティまで 含めた統合的なITインフラの提供

Q: 今後の展望について差し支えない範囲で教えてください。

A: 「iStorage」は、本質的なお客様のデータの安心・安全な格納を実現しつつ、今後もお客様の経営課題や社会課題に柔軟に対応可能なブランドを目指しています。
昨今、デジタル革新やAI活用の加速など、ITインフラに求められる姿が急速に変化しています。
お客様のビジネスに貢献する価値提供基盤として、iStorageブランドは変容していきます。

NEC
データストレージ統括部
ディレクター
藤原 英泰



Vシリーズ

Q: 近年の共有ストレージの課題と最新のVシリーズでのアプローチを教えてください。

A: 近年、ランサムウェアによる被害が増加傾向にあり、ストレージとしてもランサムウェアを防ぐ仕組みが求められています。iStorage Vシリーズではそのような要望に応えるべく Secure Snapというデータの改ざんができない差分バックアップ機能を実装し対策を打っています。また、AI需要の高まりと共に消費電力低減に向けた取り組みも今後より重要になってくると考えています。iStorage Vシリーズは電力効率が高い部品を積極採用することで製品の消費電力を抑えると共に、大容量SSDを採用し集約率を高めることでシステム全体の省電力に貢献しています。

Q: 第1世代のSシリーズから各シリーズで共通してこだわっている点があれば教えてください。

A: お客様の重要なデータを保管するシステムとして信頼性や可用性にこだわりぬいて製品を開発しています。細かいところではストレージ内部でデータが化けないようデータごとに冗長符号で保護する機能を作り込んでいたり、システムの複製データを遠隔地で保存するソリューションの実装などを通じ確実にお客様のデータを保護し運用を止めない仕組みを提供し続けています。

Q: 第1世代のSシリーズと比べて、現在のVシリーズではどのような進化を遂げていますか。

A: 世代を重ねるごとに性能・効率性・運用性を改善するソリューションを充実させており、技術の進化とも合わせて当時では考えられないくらい高性能・高機能になっています。例えば性能・システム容量で比較すると、SシリーズとVシリーズでは性能で10倍以上、システム容量で200倍以上になっています。さらに、Vシリーズは重複排除・圧縮機能も実装されており、用途によっては1000倍以上効率的にデータを保存できるようになっています。また、お客様への提供方法も進化しています。従量課金サービス等により、従来はストレージをお客様が所有する選択肢しかありませんでしたが、お客様の状況に合わせ、柔軟な選択ができるように進化させています。

Q: 今後の展望について差し支えない範囲で教えてください。

A: ストレージシステムとして、お客様のデータを安全安心に保存できる製品を提供し続けていくという基本理念は今後も変わることはありません。一方で、安全安心の基準が時代と主に高くなっていますし、求められる機能・サービスも多様化しています。特にセキュリティ/運用効率化などへの要求は近年ますます高度になっており、iStorageとしても対応を強化していきます。また、今後はシステムを制御するAIエージェントとの連携も必要になると考えており、常に進化を続け、お客様の期待に沿える製品・サービスを提供していきます。

【開発者インタビュー】バックアップ装置編

NEC
データストレージ統括部
ディレクター
東 克光



HSシリーズ

Q: 近年のバックアップ装置の課題と最新のHSシリーズでのアプローチを教えてください。

A: ランサムウェア対策や遠隔地保管の市場ニーズにこたえて製品・サービスを強化しています。

Q: iStorage HSの第1世代から共通してこだわっている点があれば教えてください。

A: 冗長性、重複排除、スケールアウトは第1世代をリリースした当時としては革新的で現在のモデルでも継承しています。上位のモデルではノードの入れ替えにも対応しています。

Q: 第1世代と比べて、現在のHSシリーズではどのような進化を遂げていますか。

A: 遠隔地やクラウドへのバックアップといった顧客視点でのサービス強化に力をいれています。

Q: 今後の展望について差し支えない範囲で教えてください。

A: ハードウェアという観点では製品の継続的な供給を意識して製品のアップデートを行い、セキュリティ対策やオンプレ・クラウドのハイブリッド対応などの機能を拡充を行っていきます。

Tシリーズ

Q: 近年のバックアップ装置の課題と最新のTシリーズでのアプローチを教えてください。

A: LTOカートリッジは物理エアギャップがとれる点から、ランサムウェア対策としてテープへのバックアップの必要性が見直されています。また、最近のデータ容量増加に伴いアーカイブ需要も増えてきており、スケーラブル対応できるT280もおすすめしております。

Q: NECのテープ装置は長年の歴史がありますが、第1世代のモデルから最新のTシリーズで共通してこだわっている点があれば教えてください。

A: 高い品質が維持できる国内工場を組み立て、検査し出荷している点です。

Q: 第1世代と比べて、現在のTシリーズではどのような進化を遂げていますか。

A: LTO-1は100GB、現行のLTO-9は18TBで、1巻あたりの容量は180倍になり、第1世代のT40は高さ10Uで40巻、現行のT280は3Uで40巻と1Uあたりのデータカートリッジの搭載数は3.3倍に向上しています。

Q: 今後の展望について差し支えない範囲で教えてください。

A: LTO-10などLTOの進化に合わせて、ニーズを踏まえながら製品をリリースしていきます。